

『川島雄三監督特集』 映画上映会のご案内



©1957 NIKKATSU CORPORATION

当館、国際交流基金、サンマルティン劇場（ブエノスアイレス劇場複合施設）及びアルゼンチン映画財団の共催による『川島雄三監督特集』を12月9日（火）～13日（土）まで、サンマルティン劇場（Av. Corrientes 1530, CABA）レオポルド・ルゴーネス・サロンにて開催いたします。

川島雄三監督は小津安二郎・黒澤明・溝口健二といった古典映画の巨匠世代と、今村昌平や大島渚らの「日本ヌーベルバーグ」世代をつなぐミッシングリンクと言える存在でした。45年の生涯に51作品を残して早逝した鬼才として、“重喜劇”、スラップスティック、モダンな文芸作から、うらぶれた男女の心理を見事に描いた作品など、実に多彩な映画を生み出し、その斬新さは時代を超え、今なお輝きを失うことはありません。1938年に小津安二郎らのいた松竹に入社、小津や木下恵介監督、渋谷実監督等の助監督を経て1944年に監督デビュー。1954年に日活に移籍し、その後、東宝、大映と渡り歩きました。今村昌平監督は、川島のチーフ助監督を務める傍ら、脚本にも関わり、川島の死後には追悼本を編集するなど、川島雄三を師と仰ぎ、自身の作品に多大な影響を受けました。今村は川島を「日本ヌーベルバーグ出現の10年前にその精神を体現した人物」と賛辞を送っています。川島の代表作の一つである『幕末太陽傳』は、日本映画史に残る傑作といわれ、黒澤明は「黒澤明の選ぶ名画100本」のひとつにこの作品を選んでいます。

本事業のために日本からデジタルリマスター作品5本を取り寄せました。この機会を是非お見逃しなく。

会 場	サンマルティン劇場 10 階レオポルド・ルゴーネス・サロン (Av. Corrientes 1530)
期 間	2025 年 12 月 9 日 (火) ~ 12 月 13 日 (土)
上映開始時間	15:00、18:00、21:00
入 場 料	7,000 ペソ (一般)、4,000 ペソ (学生、年金生活者)
公式ページ	https://complejoteatral.gob.ar/ver/Descubrir-a-Yuzo-Kawashima

12月 9日 (火) 洲崎パラダイス 赤信号

(15 時、21 時) (1956 年、81 分、DCP/主演：新珠三千代、三橋達也)

東京・洲崎遊郭へとつながる橋のたもとにある飲み屋を舞台に、そこに出入りする人々の姿を決して飾ることなく、しかし温かい眼差しで描いたドラマ。

女は二度生まれる

(18 時) (1961 年、99 分、DCP/主演：若尾文子、藤巻潤)

富田常雄の小説「小えん日記」を、川島雄三が井出俊郎とともに脚色、監督した作品。大映での初監督作品。

10日 (水) 女は二度生まれる

(15 時、21 時) (1961 年、99 分、DCP/主演：若尾文子、藤巻潤)

洲崎パラダイス 赤信号

(18 時) (1956 年、81 分、DCP/主演：新珠三千代、三橋達也)

11日 (木) しとやかな獣

(15 時、21 時) (1962 年、96 分、DCP/主演：若尾文子、伊藤雄之助)

新藤兼人が原作・脚色を担当し、川島雄三が監督したブラック・ユーモアあふれる一編。ほぼ全員が悪人というキャラクターたちが、団地の一室を舞台に膨大なセリフでやり合う。

雁の寺

(18 時) 1962 年、97 分、DCP/主演：若尾文子、高見国一)

水上勉の直木賞受賞作を若尾文子主演で映画化した官能的でサスペンスフルな文芸ドラマ。

12日 (金) 雁の寺

(15 時、21 時) (1962 年、97 分、DCP/主演：若尾文子、高見国一)

しとやかな獣

(18 時) 1962 年、96 分、DCP/主演：若尾文子、伊藤雄之助)

13日（土）

幕末太陽伝

(15時、18時、21時) (1957年、110分、DCP/主演：フランキー堺、

左幸子、南田洋子、石原裕次郎)

古典落語の「居残り佐平治」を下敷きに、幕末の品川の遊郭に居座り続ける、お調子者で狡猾なひとりの男を描いたコメディー。「黒澤明の選ぶ名画100本」のひとつ。



JAPAN FOUNDATION
国際交流基金



Centro Cultural e Informativo de
la Embajada del Japón en Argentina

COMPLEJO
TEATRAL
DE BUENOS
AIRES —

fca Fundación
Cinemateca
Argentina